

平成29年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立大みか小学校 係長 鎌田 るみ子

- | | |
|--------|---|
| 1 派遣期日 | 平成29年 8月22日(火) |
| 2 研修先 | 会場名 ビッグパレットふくしま
所在地 福島県郡山市南二丁目52番地 |
| 3 研修内容 | 大会テーマ 子どもの学びを支援する学校経営事務をめざして
～カリキュラム経営に参画する学校事務～ |

- | | |
|----------|--|
| (1) 全体研修 | 研修テーマ カリキュラム経営に参画する学校事務からみえてきたもの
～変わる教育にどう関わっていけるか～ |
|----------|--|

福島県では、第四次長期研修計画の最終年度を迎え、県事務研ビジョンの基本理念の実現が図られている。そこで、研究大会ではサブテーマとして「カリキュラム経営に参画する学校事務」とし、学校経営への参画について研究してきた。

パネルディスカッションでは、研究の成果を振り返りながら、次につなげる学校事務職員の役割を探っている。さらに、教育改革が進んでいく中、学校事務職員が「チーム学校」の一員としてどのように関わっていくのか、討議が行われた。

パネリストからは、次のような発言があった。

- ・当たり前の仕事でもこれでいいのかという気づきを大切にして欲しい。それが意欲を高めるきっかけになる。(福島学院大学短期大学部客員教授 宮前 貢先生)
- ・「事務をつかさどる」に変わったことを積極的に自覚して仕事をしてほしい。チャンスにしてやりがいにして欲しい。(福島大学人間発達文化学類准教授 阿内 春生先生)
- ・教職員の働き方の見直しや学校のチーム力の強化。学校運営に積極的に参加する、意識を持つ。(福島県教育庁義務教育課管理主事 長谷川 浩文先生)
- ・学校で何かを成し遂げるには予算が必要。少ない予算の中で特色を出せるようにしなければいけない。(福島第四小学校校長 渡邊 浩人先生)
- ・専門家として可能性を教えてくれるなど情報発信をお願いしたい。学校にはいろんな個性がありそれがチーム。(郡山第四中学校校長 星 克一 先生)
- ・カリキュラム経営に参画しているという気づきが、子どもの学びに直結しているという達成感につながった。気づきを大切にしてアピールしていく。自信を持って進んでいく。(福島県公立小中学校事務研究会会長 野邊 久美子先生)

(2) 分科会 (第1分科会)

- | | |
|-------|---|
| 研修テーマ | 「子どもの学びを支援する」共同・連携とは
～「共同・連携」の完全実施に向けてこれからの連携を考える～ |
|-------|---|

[実践発表]

福島県では、平成25年度から「学校事務の共同・連携実施」が始まり、平成29年度には71グループに増加している。県内各グループはそれぞれのスタイルでさまざまな活動を行っているが、活動内容を知る機会や報告の場が少ない。そこで、第1分科会では、共同・連携実施についての情報を会員へ提供し、活動への理解を深めてもらうため、県内各地の4つの共同・連携グループによる実践発表が行われた。

①「平成25年度からの西郷村グループの実践～グループ長引き継ぎ後の実践研究～」

発表者：県南地区 西郷村グループ 西郷第一中学校

・重点実践内容として、「他校訪問・事務だより・メール等を活用しての指導・支援」や「村内の業務一覧表による業務の見通し」などが挙げられた。

・教育委員会と連携をとりやすい環境が大事である。

②「三町での共同・連携の実施 ～町村またぎの実践と教育関係団体との関わり～」

発表者：相双地区 広野・檜葉・双葉グループ 広野町立広野中学校

- ・三町で備品の管理や就学援助事務の様式などの標準化・システム化をすすめている。
- ・毎回校長先生から講話をいただき、学校事務職員としての資質向上や学校経営参画への意識向上につながった。
- ・教育委員会担当者より、パソコン実技研修や「地方税」についての講義をうけて実務に役立てた。

③「教育を支援する学校事務の推進をめざして ～共同・連携実施からうまれたもの～」

発表者：いわき地区 いわき市平グループ いわき市立草野中学校

- ・共同・連携実施の中でも、児童生徒の教育活動を支援する実践である。
- ・学区が共通している隣接の小中学校では、職場体験活動先や見学先が共通していることが多いため、施設の情報と依頼文書や礼状を作成するシートなどをデータブックとしてまとめた。
- ・職場体験・施設見学データブックについては、共同・連携実施グループで作成した。情報が膨大で一人ではなしえないものである。
- ・指導する担任の先生方からは、異動ではじめての先生もいるので助かるという声があった。

④「学校事務共同・連携の展望と課題 ～へき地小規模校グループの実践から見てきたこと～」

発表者：南会津地区 南会津グループ西部班 南会津町立会津中学校

- ・南会津町は、ほとんどを森林が占める地域で、へき地小規模校が点在している。県教委からは、1グループの指定を受けているが、峠を隔てた共同連携は難しいことから、東部地区グループと西部地区グループの二つに分けて実践している。
- ・ベテランが若手を手助けするだけでなく、若手がベテランを補佐する「新たな相互支援（経験に応じた役割分担）」を実現した。
- ・財務が学校経営・運営の大きな柱であることを自他ともに認識するために学校便りに掲載した。

[パネルディスカッション]

実践発表の後、共同・連携の完全実施に向け「子供の学びを支援する」共同・連携について、いわき市教育委員会の共同・連携実施担当者やいわき市事務研究会会長、共同・連携グループに参加している教頭先生2名、指導助言者、実践発表者を交えてパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションでは、資質・専門性の向上、心のサポート・支援になる共同・連携であってほしいという意見があった。福島県内にある事務職員の未配置校の教頭先生からは、共同・連携により助けられたという切実な内容も示された。

4 感想

茨城県以外の共同実施について、研修することができて貴重な経験だった。

福島県は、まだまだ震災の影響が残っていて、子供たちの帰還率が低く学校を再開できていないところもあった。チーム学校としての役割は、より大きく求められる状況にある。

発表では、共通の事務カレンダーの作成や事務のシステム化など日立市の取組みと同じものもあったが、市の教育委員会や校長会などの組織との連携や、新たな相互支援の実現など、新しい発見もあった。どのグループの活動も、特色がありとても活気のあるものだった。

この研修を通して、事務職員はチーム学校の一員として、教育を支える一人であると強く自覚した。今後、自らの専門性を伸ばしていくために資質・能力の向上に励まなければならないと改めて思った。本市の「一人一人が輝く活力ある学校づくりを支える学校事務のあり方」の研究に生かしていきたい。

